

大阪府立 京陽高等学校
 85 期担任 2021 年 3 月 2 日 (火曜日)
 第 18 号



幸せになつてくれ！ Go Forward！
 野球小僧は、あつたが、男らしく頑張る。

終わってしまったね。時間というのは残酷や。どんな人間にも同じように襲いかかり、誰も抗うことはできない。時間の前では、我々は本当に無力だ。いつも思うが、未来は「永遠」に続くように感じ、過去は「瞬」になる。3年間は過ぎしまえば、あつという間や、僕も、73期が始まる時「今から3年か……長いなあ」と正直思ったが、今は「いつの間にか100日も経つたんや？」と感じている。

誰しも、限られた時間の中で生きていく。若い君たちには実感はできないかもしれないが、一人一人に与えられた時間は無限ではない。偉そうに言っている僕も、本当にそれに気づき、焦りだしたのは、30歳の時や。「うわっ、教員人生、あと30年しかない！ カウントダウンが始まる！」と思ったことを覚えてる。だから、18歳の君たちには、「何言つとんねん」としか思えないかもしれないが、一瞬一瞬を大切に生きてほしいんや。「もつともつと全力で生きてきたらよかつた」とちよつと反省しているおつちちゃんの助言として聞いてくれたらなあ、と思つている。

でも、「逆もまた真なり」で、人間、人生には「無駄」が付く物で、人生は「無駄」の連続といつてもいいかもしれない。その時々で「無駄」だと思つようなことも、後からむちやくちやく役に立つことも多い。直接的に見えない結果がなくても、その人の人間としての「肥やし」になつて、花を咲かせ、豊かな実をつける基になるんや。「無駄」は人間にとつて必要不可欠なんや。



何か矛盾することを書いてきたよつやが、人生つてそんなもんや、と思つ。何が正解で、何が間違いかなんて、その時はわからん。本当に「無駄な無駄」と有形無形の「肥やし」になる可能性のある「無駄」の区別ができないといかん。「無駄」も含めて、ただ、とにかく、一生懸命に生きればええんや。生き方は人それぞれが考えればいい。それさえできれば、君たちには輝かしい未来がきつと待つている。幸運は折らない。幸運を自分の力で引き寄せる生き方をしてくれ、ことを祈つている。

いまこの1年が終わろうとしています。何も社会の情勢は変わつていないと思う反面、ウイルスは変異し、その脅威を依然、蔵しています。医療従事者の方は必死に頑張つていらっしゃいますが、なかなか変わらない現状。しかしウイルスは元々変異し易く、どんどん今も変異し続ける。…この差は何かわかりますか？ 私は、題名に挙げたように、他人と自分の差だと思つています。どんな環境にあつても、自分は自分で変えることができます。自分がどうあるべきか、どうありたいのかを考えて、自身をどんどん変異させていってほしいと思つています。もう一つ、過去は変えることができません。良い意味でも悪い意味でも、もう過ぎたことは変わりません。皆さんが過ごした京陽高校での3年間は、誰の手によつても変えることができません。コロナがない時は、とつとつても、もつと勉強したらよかつた、とつとつても、変わりません。しかし、未来は変えることができます。コロナがなくならぬ世の中にするにはどうすればいいか、みんなより賢く勉強だけではなく、様々な分野での知識、能力が大学生以降は必要になります。これからなれば良いのです。世の中は学校の勉強が出来たらよいというわけではない、というのは、これからの人生でひしひしと感じることでしょう。様々な分野の勉強をして、様々な人とコミュニケーションが取れる人になつて下さい。



パールバツ

さて世の中、人々は技術習得、資格取得等よく働いて、学業をすると考えている。身に着けるには読書をして下さい。学生時代に良書に接することは人生の財産になりますよ。ぜひ本に親しむ時間を作つて下さい。

読んで欲しい本、福翁自伝「フランクリンの自伝」「大地」作者卓喜恵「怒りの葡萄」坂の上の雲……
 どうかよい人生を歩んで下さい。
 2組担任

「なぜ？」を大切に。
 73期の皆さん、卒業おめでとうございます。京陽高校に赴任して3年目に、この学年の担任を持つことになり、どんな風に成長していくのか、わくわくしたのを昨日のこのように覚えてます。本当に3年間よく頑張りましたね。そして、これから更に飛躍してくれることを願つています。宇宙科学が発達した現代、球体の地球が1年かけて太陽の周りを周回していることは、今や小学生でも知つていますね。だが、本当に地球は球体なのだろうか？ そんなことは当たり前。ずつとそう習つてきた。と言つたけなら40年前に「地球は動いていない」と唱えたガリレオを罵倒したローマ市民と余り変わりません。その当時、大きな権威を持った教会も、天動説を教えたのだから、月食に映つた地球の影も、土衛星から撮つた写真も丸



ガリレオ

い形をしているという人もいます。しかし、かしそれだけでは、地球平板説の否定にはなりません。また西に向かつた船が東から帰つてきたとしても、地球楕円形説の否定にはならない。地球は球体なのでしょう。しかし、それを権威あるものが言うのだから、という理由だけなら真理の認識とはいえません。40年前にローマ市民が、権威ある教会等の教えのままに「打倒！ ガリレオ」と叫んだのと同じだからです。権威を鵜呑みにするのは危険です。どんなことにも「ほんま？」「なんや？」と問い返してみましよう。ひよつとしたら私達は、政治や経済や環境や文化や福祉などの社会の様々な場所で「打倒！ ガリレオ」をやつているかもしれせん。73期生は卒業し、大学や社会へと巣立つていきますが、何事にも「なぜ？」と問い返す姿勢を大切に。その為京陽高校で学んできたのだから。



6組担任

いよいよ旅立ちのとき
 卒業おめでとう。
 僕にとつて73期のみんなとの3年間は、全てが初めてで全てが新鮮でした。初めて3年間を過ごした学年が、73期のみんなとよかつたです。
 高校3年生となつた今、後輩や中学生をみた時、きつとまだまだ子どもやな、と感じると思つています。同様に、先輩の先生方からみた僕はまだまだ子どもでも、僕からみたみんなはまだまだ子どもです。これからの大学生、社会生活はクラスや学年という枠組を超えて、世界が大きく広がります。やりたいことも自分次第で無限大に広がられます。しんどいこともあるかもしれませんが、そんな時は、まだまだ子どもだからこそ、周りを頼ることを大切にして下さいね。僕もまだまだ周りを頼りながら頑張りたいと思つています。

大学の卒業時、僕は「高3の担任をもつて進路指導をしっかりと卒業させたい」と目標をたてていました。しっかりとやれたかはわかりませんが、教員になつて高3の担任をもつて卒業させるという目標は達成できました。また新たな目標を作りたいと思つています。

出会
 ついに卒業ですね。
 入学してきた頃の僕は、まだあどけなさが残つていたのに、今では自分の人生を見つめる力強い眼差をするよ



1組担任

うになつていて、この3年間の経験が皆を変えたんだなあと
思うと感慨深いです。

部活に打ち込んだ時間も、何気ない友達との会話も、
眠たい午後の授業を必死に起きて受けようとしたことも、
全志の思い出がこれからの皆を支えてくれるはず。随分前
に卒業した私も、未だに高校時代の経験や出会いに支え
られているから間違いない！何か壁にぶつかった時は、
今までのことを思い出してみようね。

そして、私が今一番感じていること
は、ほんまに人つて沢山の人の支えら
れて生きてるなあつて事です。



妊娠・出産育児は思った以上に大変で、迷惑かけたくな
いのと思うように出来ない、この連続です。でも、何とか
過(こ)せているのは、家族・友達、同僚は勿論相談に乗って
くれる助産師さんたち、親身になってくれる小児科医さ
んとの出会いなど、色んな人に支えられてるからです。
一人だけで生きてる人つていないと思えますし、皆の存
在も、誰かの支えになつています。だから、人との出会いを大
切にし、その出会いに感謝して下さいね。きょうといひことが
もつと増えて、どんな事も乗り越えられます！
自信を持つて、これからの未来にワクワクしながら
進んで下さいね。いつまでも応援しています。では、ま
たどこかで、いつてらっしゃい！

*2組担任

門出の日

三月一日、いよいよ卒業式を迎えました。本校73期生
との別れの日、皆さんにとっては晴れの門出の日です。

私は73期生が入学した年に、本校に校長として赴任
してきました。入学式では、失敗を恐れず、何事にも「チ
ャレンジ」して欲しいと、皆さんに伝えたことを覚えて
います。「夢」を叶え、人生を豊かにする為に、そして、
若い今だからこそ、楽な道を選ばず、自分にとつて辛く
て、しんどい道を選び、頑張つて「チャレンジ」して下さい。
い。そして、うまくいかななくても、更に学び、自分を信じ
て、「チャレンジ」して下さい。期待しています。と。
先日、ある生徒の面接指導をしました。小・中学校に続
き、泉陽高校の3年間でいろいろな事に「チャレンジ」
し、その中で自身の夢を見つけ、それを叶える為、志望
校を決めていました。嬉しい限りです。

さて今年度はコロナ禍で、保護者の方が学校行事に参
加して頂く機会が殆どありませんでした。しかし、高校生

活最後の行事である卒業式には多くの保護者の方々も出
席して下さいます。私自身も長男の卒業式には、休暇を取
つて出席しました。教員として出席した卒業式は37回を
数えますが、保護者として出席すると、思いも変わつてき
ます。同じく、高校を卒業していく同級生の皆さんを見て
いて、「こまの歩みか思い出さされ、目頭が熱くなりま
した。生徒の皆さんがいちばん意識しているのは**友達と
の別れ**だと思いますが、保護者の皆さんはきつと、子ど
もがこの世に生を受けて以来のこれまでの親子の歴史
を思い浮かべながら万感の思いで子どもさんの節目の儀
式を見守つて下さるのだと思ひます。

本校の教職員もまた、様々な思いを抱きながら卒業
式に臨みます。とりわけ3年生の担任の先生方は、感無
量の思いで教えた子たちの門出を見届けます。私も、教え
子たちの卒業は、本当に胸に迫るものがありました。卒
業式の翌日、ホームルームの教室の前を通りかかつて
主を失つた空っぽの教室の中を見た途端に、もはや40
人との教室で時間を共有することはないのだろうと
いう事実を改めて実感させられ、喪失感でしばらく教
室の中に立ちすくんでいたことを思い出しました。

教師といふのはそういうものです。73期生の9人の担任
の先生方にとつても、卒業式は、それぞれの心の中の感受
性に、線を描く為の、一生忘れることのない大切な儀式で
す。このような沢山の大人たちが見守る儀式、その願ひは
若者たちに「未来を託す」ことにはなりません。

やがて卒業生たちが年齢を重ねいつの日か今度はお
となとして次代を担う若者たちに未来を託さなけれ
ばいけない場面が必ずやつてきます。その日に備えて、
最後の指導として「託すメモリー」なのが卒業式です。
73期生の皆さんも様々な思いが込められた儀式とし
て卒業式を捉えて下さい。卒業おめでとう！

書いてはいけないかもしれない話と異口同音と



40年近く昔、教員になった年のこと
です。欠席が続いた生徒の所に連絡物を持
つて行くよう頼まれました。地図を片手
に海沿いの町を進んで行くと、玉葱畑の一角にトタンで覆
われた作業小屋がありました。「まさかと思ひながら声
を掛けると、「ハイ」と生徒の明るい声。そこがその生徒
の住みでした。中は四畳くらい広さで、裸電球がぶら
下がり、湿った空気の底に布団が敷かれていました。私が

「大丈夫か」と聞くと、彼女は赤い顔で頷きました。他の
人の気配を感じて部屋の隅に目を向けると、小柄な男性
があぐらをかいて酒瓶を抱えていました。高校の藤原で
す。」と挨拶しましたが、男性はじろりと私をにらむだけ
でした。「早く元気になつて学校においでよ」
と言つて帰るしかありませんでした。
彼女が退学手続きに来た日に少し話を
しました。父親が酒を呑んでばかりいる
と、母親と姉が出たこと、これから本人は漬物屋で
売り子として働く、ということを書きました。働いた方が
楽しいから」という彼女の言葉を信じるほかにありません
でした。



高3の秋、就職も決まっていた生徒が学校に来なくな
りました。保護者の町工場が連鎖倒産となり、サラ金に
責められて一家で夜逃げしたと、友人だった生徒が言
います。わずかな情報をもとに捜しに行くと、山の麓の廃
屋に隠れていました。彼はそれから一度も登校するこ
となく中途退学となりましたが、まじめな人柄を買っ
てくれる人がいて社会人となりました。
脳腫瘍の治療が続けながら高校に通っている生徒がい
ました。笑顔のかわいひ生徒で、野球部に入っていました。
夏休み手術を受けて、キヤッチボールができなくなりま
した。冬休みにも手術を受けて、歩く時に杖が必要なり
ました。学年が上がると、意識を失つて救急車を呼ぶこ
も重なりました。「授業を受けられる状況ではない」と早
い入院を強く勧めましたが、本人は勉強したいからと受
け付けません。車椅子に乗るようになり、先生たちで当
番を組んで毎時間トイレに連れて行きました。やがて日本
で有数の専門病院に入院しましたが、しばらくして彼は息
を引き取りました。彼は自分の命が短いことを知つてい
たのです。だから、その日でも多学校に通いたかったのです。
ここに書けない話もたくさんあります。私の教員生
活は総じて楽しいものでしたが、自分の無力を思い知
ることが多かつたです。

泉陽高校に赴任して最も感動を覚えたのは、文化祭も
体育祭も合唱コンクールでもありません。ある懇談会の
日でした。将来の希望を尋ねていくと、「医療に携わりたい」
「工学を学びたい」「教員になりたい」「社会福祉の仕事がし
たい」「法律を学びたい」「外国で働きたい」と答えは様々し
いたが、「どうしてそうしたいの」と聞くと、どの人も子供
たち(他人世界)の為働きたいから」と答えたのです。(異

口同音！)多くの人からこの言葉を聞く内に、胸がいつぱい
になりました。自身が高校生の時とはエライ違いだと思
いました。泉陽高校の皆は同じ夢を見ているのですね。人間
は人間の中でしか幸せになれない。子供たちや他の人た
ちが苦しんでいる中で、自分だけ幸せということはあり得な
い。他者を幸せにすること以上に幸せなことはない。大切
なことを高校生が君たちから改めて教えてもらいました。
卒業おめでとう。そして、ありがとう。君たちなら大
丈夫です。あたたいかい世界を築いてください。 8組担任

大きな樹



73期生の皆さん、卒業おめでとう！泉
陽高校での3年間で身につけた事、成長
た事等、沢山あると思います。高校3年間
は「人生の根っこ」を作る時期だと、学校説明会等で話す事
があります。樹齢2000年以上、高さ25m超の屋久島の縄文杉
も、根っこがしっかりとしているからこそ、現在もその雄姿を
見る事ができるのです。皆さんは泉陽高校で根っこをどれ
だけしっかりとさせられたでしょうか。友達から刺激を
受け、先生方からアドバイスを受け、家族をはじめ関わ
つた沢山の人の愛情を受けて、少しずつ根っこが作られた
はずですよ。卒業後、更に根っこを成長させ、幹を太くし、大
きく枝を張り、青々とした葉を繁らせるよう努力を続け
て下さい。時には思うように進まない事や壁が立ちはたか
る事もあるでしょう。しかし「風の Love So Sweet」の歌詞
にもあるように、「明けない夜はないさ、信じる事が全て」で
す。まっすぐ前を向いて前進あるのみ！ Go Forwardです。
改めてご卒業おめでとうございませう。ではまた。 教頭

卒業おめでとう

あつという間の3年間だったのではありませぬか。
担任としては、1年間の関わりでしたが、十分に沢山の
思い出ができました。73期生は、2年の時の「文型化学基
礎」3年の「理型化学」と、2種類の授業を担当しました。
「まじめに努力する人が多い」学年という印象です。

この1年は、「新型コロナ」で、例年にないことばかり。
また、「共通テスト」という新しいタイプの受験に向けて
手探り状態のことばかり。そんな中で、みんなよく頑
張つたと思います。

4月からの新生活、それぞれの場所で輝いてくれる
ことを祈つてます。